

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600230		
法人名	株式会社 サカイ		
事業所名	グループホーム あじさい「小杖」(1階)		
所在地	〒483-8412 江南市小杖町寺之内114番地		
自己評価作成日	令和4年2月7日	評価結果市町村受理日	令和4年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393600230-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさいの理念である、「いろとりどりのあじさいのようにその人らしく」認知症高齢者が安心して暮らし、生きる喜びを実感していただき、「その人らしく最後まで」を支援していきます。
ご利用者様にとって『もう一つの我が家』と思って頂ける環境を作り、そして、地域の人々が将来にわたり、安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護に関する質の向上と後継者の育成に力を注ぎます。
毎朝の散歩を日課とし、季節を感じていただき、体力の維持に取り組んでいます。また食事作り、洗濯物干しやたたみなど、ご利用者様のペースと一緒にさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小規模多機能事業所と併設して運営していることで、利用者や家族の状況等にも合わせながら、小規模多機能からグループホームへの移行が可能な支援体制がつけられている。併設の小規模多機能についても徐々に登録の利用者が増えており、両事業所間で連携した利用者や家族の支援にもつながっている。ホームは、開設以来、感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームからの働きかけを続けながら、地域の方にホームを知ってもらう取り組みが行われている。地域の公民館で集まり等がある際には、ホームの駐車場を利用してもらう等、地域貢献につながる取り組みも行われている。また、職員研修については、法人全体で積極的な取り組みが行われており、職員の資質向上を図りながら日常の支援につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新しい職員の入職に伴い、統一できていないことがある。 ほぼ共有できていると思う。 まだ2年目の施設ですが、コミュニケーションが取れ、実践はできています。 それぞれがそれぞれのレベルで出来ることをしている。 レベル差はあるが個人それぞれで取り組んでいる。 毎朝、朝礼で唱和し、意識して行動するようにしている。 地域へもっとアピールしていく。	運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら、ホーム独自の理念をつくる取り組みも行われている。毎日の朝礼の時間に職員間で理念を唱和する取り組みが行われており、理念の実践につなげている。また、理念を通じて認知症の方への理解を深めることを目指した内容も掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの関係もあり、なかなか地域の方々と交流がほとんどない。 毎朝の散歩時に地域の方々と会った際には挨拶はしている。おしゃべりはしている。 コロナ禍で交流に制限がある。 新型コロナウイルスの関係もあり、なかなか地域の方々と交流がほとんどない。 散歩時は近隣住民とあいさつや会話を楽しんでいる。 地域の方々に施設行事に参加していただけるようにしたい。	感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームからの働きかけを行いながら、地域の方にホームを知ってもらい取り組みを継続している。地域の学校との交流等、今後の状況を考えながら、ホームで様々な構想が考えられている。	今後の感染症の状況をみながら、地域交流に関する様々な構想が実現し、地域の方との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍であるため地域の方々へのかかわりの機会がほとんどなく、発信することができない。 勉強会やカフェなど開催できていない。 緩和したら行っていきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して話し合いをしている。 家族の思いを理解し、ケアやサービスに反映できていると思うが、職員全員には行き届いていないと思われる。 実践して修正したことがわかりにくい。 実践状況を分かりやすくする。	ホーム内に交流スペースが確保されていることもあり、ホームでは、感染症の状況をみながら会議の開催が行われている。会議の際には、地域の方の参加が得られており、地域に関する定期的な情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者やケアマネからは聞いているので出来ていると思うがよくわからない。 良くわからない。 取り組みの報告があると良い。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設事業所を通じても行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。地域包括支援センターとも認知症施策に関する意見交換等、様々な情報交換が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月研修が行われ理解し行うように取り組んでいる。 取り組んでいるが、正しく理解ということにおいて十分とは言い切れない。 玄関は施錠している。 全職員へ向けた虐待研修が行われている。 職員同士注意できるよう努めている。 職員同士の関係性を良くしたい。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内は開放的な空間をつくりながら、利用者の状況等に合わせた支援が行われている。また、身体拘束に関する利用者一人ひとりの状況等を検討の取り組みや職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止については研修もあり、学び、スタッフ同士注意し実践している。 実際に虐待はないと思う。 スタッフ一人ひとりが自分の行動に責任を持つことで良くなると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	これまで、本事例のご利用者様の利用が無い。学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	代表が行い、内容は閲覧できる。出来ていると感じるが、その内容をスタッフ全てには共有されていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者を中心として、家族や利用者にとって利益があるように動いている。意見やご要望がある場合には報告やノートへ記録で共有・検討を行っている。お会いできる際に意識的に伺うようにしている。手紙など書面でも伝える方法があるとよい。	現状、家族との交流が困難になっているが、可能な範囲で家族との面会の機会をつくり、交流の機会につなげている。運営法人でアンケートを実施しており、家族からの要望等の把握につなげ、ホームの運営への反映につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	開設以来、感染症問題が続いていることで、家族との交流会が行われていない状況でもあるため、今後の感染症の状況をみながら、交流会の実現につながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会議の中で要望を出し、法人としての見解を確認できている。常に聞く機会や態度が示されている。困ったことやわからないことなど話をする時間を作っていただいていると思います。聞き取り調査の実施積極的にやっている。	毎月の職員会議や日常的な意見交換等を実施しながら、職員からの意見等を管理者を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、ホーム内で職員間で役割分担を行う取り組みや管理者による職員面談の取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来ていると思う。フロア会議や面談などで反映されている。スタッフ一人ひとりが思いやりをもって出来ていると思います。ご利用者の状況で休憩が取りにくくなっていることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	多くの社内研修の機会が定期的であり、学ぶ機会を多く作ってもらっている。トレーニング不足はあると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新型コロナウイルスの影響で、本来企画されていたことも中止になってしまった。交流の機会がない。出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴に努め意見をくみ取り代弁者になるべく努力している。 概ねできている。また努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	良く聞いて努めていると思う。 特にケアマネはご家族とコミュニケーションをとっていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	真摯に話を聞き務めている。 主にケアマネが行っている。 ケアマネから聞き取りが行われ、ケアに反映されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの立場で行えるよう努力している。 慣れ過ぎず、対等に向き合っている。 築けていると思うが、もっと職員が努力できると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアマネと管理者がともに行っていると思う。 ご家族の気持ちに寄り添い、状況を伝えながら共に考えている。 ご家族様にはとても助けていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍にあり、困難なことも多いが、面会や外出を出来る範囲で行っている。 少しでも多くの面会が出来るようにしている。 法人の規定に沿って可能な限り行っている。 事業所へ来ていただける機会を持つ。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、併設事業所に利用者の入居前からの馴染みの方が利用しており、関係継続の機会にもつながっている。また、家族との外出も可能な範囲で行われており、身内の方の葬儀に出かける等、関係継続にもつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良いご利用者様同士の声掛けがあります。 楽しく過ごせていると思います。 利用者様同士の関係性を考え、席の配置やイベントを実施し、交流をしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	まだそういう方がいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ添えるようにしていますが、難しい時もあります。 本人のやりたいことを聞きながら支援している。個別の要望に添える方法を会議や申し送り時に検討している。 チームで担うよう考える。	職員間で利用者を担当する取り組みや利用者毎に分けられたノート(支援経過記録)等を活用しながら、利用者や家族の意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスを実施し、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人との会話や習慣などからも把握する。 特に新しいスタッフは難しいかもしれない。 ノートを全て読めないため古参でも把握していないスタッフもいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中での気づきを大切にしている。 一人ひとりの過ごし方、ADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングやカンファレンスなどで意見を出し合っている。 変更時や新しい試みはノートなどで共有に努めている。 状態の変化に応じて対応を変えたり、経過を検討している。 情報の共有が難しい。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも介護計画に関するチェック表への記録も行いながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフからケアマネへ問いかけがなされることが多くなり、見直しがなされている。 支援経過ノート、iPadに記録を残しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時に、フロアーをまたいでの話し合ったり、職員同士で打ち合わせの機会を随時持っている。 管理者・ケアマネを通して協力して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍であるため、外出を伴う地域資源は現状活用できていない。 コロナが緩和したときは地域資源を有効活用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	出来ている。 往診が無い時は看護師やCMIによる連絡で来てもらえたり、指示をもらえる。 かかりつけ医と連携が取れている。 定期的に内科及び歯科の往診がある。	協力医との医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。今までのかかりつけ医を継続している方もあり、家族の支援で受診が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に情報を口頭や書面で交換し、相談や指示を受けている。 看護職への報連相が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは管理者等上司以外は接することが無い。 看護師が行っている。 入院した際に病院と情報交換・相談が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。 提携医とご家族様と情報を共有・提供しながら進めている。 同じ方向を向いていけるようにしたい。 終末期の方がまだいらっしゃらないが、研修は行っており、理解に努めている	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医との連携を深めながら、ホームでの看取り支援が行われている。身体状態等、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねており、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	新人職員は難しいが、報告をすることから始めている。 訓練は行っていない。 個人で研修を受けているが職場では訓練はありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との連携の面ではわからない。 避難訓練は行っているが、地域との協力体制は不明。 火災・水害・地震による避難訓練の実施。 消防署の立会いのもと利用者様を交え、消火訓練を行っている。今後は近隣の方々も参加していただく。	火災、地震、水害を想定した年6回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。水害の想定地域でもあることで、2階に移動する対応が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	感染症問題が続いていることで、災害に関する地域の方との協力関係も困難な状況が続いているが、交流スペースの活用等、災害対策に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に気を付け努力しています。 接遇の研修があり、特に言葉づかいは厳しく指導されている。 研修も設けられている。 職員同士がお互いに気を付け注意しあう。 直接その場で本人に伝える関係性を築く。	ホームの基本理念には認知症の方への理解を深める内容も掲げられており、職員による利用者への対応や言葉遣い等に関する振り返りの機会にもつなげている。また、不適切ケアや接遇に関する職員研修を実施しており、職員の注意喚起の機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けや問いかけを行い、本人が自己決定できるようにしている。 バタバタしていると、おろそかになるときも見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは守っている。 利用者様本位のケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	概ねできています。 本人の意向やこだわりを耳を傾け、出来る方法で支援している。 鬚や爪などできていなこともある。 入浴時など一緒に衣類を選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々のADLあった食事やその量などが考えられている。 食事準備や片付けを一緒に行っている。 調理から片づけまで、利用者様が携わっている。 上げ膳据え膳ではなく皆で行っている。 皆がそれぞれに出来ることを活かした出来ることを行い、職員はサポートする。	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好等への配慮も行われている。利用者もできることに参加し、調理や片付け等が行われている。テイクアウトの活用やおやつ作り等も行われている他にも、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量や食事の形態など、個々の状態を把握している。 同じメニューが続いたり献立が偏っている。 一人ひとりの状態を把握し、その人に合った食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアはできていると思う。 定期の歯科往診と歯科衛生士のケアが行われている。 毎食後の口腔ケアを声掛け促し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員によって対応が違うことがある。 コスト削減も意識している。 スタッフの空いた時間に誘導するしかないという状態も多い。 支援をおこなっている。 トイレへ行った時間や失禁の有無等、記録に残し次回へ活かしている。 パッド類の見直しを定期的に行っている。 コスト削減へ向けて具体的に見直しする。	利用者の排泄記録を残し、排泄表や利用者毎のノート(支援経過記録)等も活用しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでも排泄を基本に、排泄に関する医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の声掛けや乳酸菌摂取など食事全般で予防に取り組んでいる。 毎日の水分摂取の機会や体操などの機会を増やしている。 看護師と相談しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一日に4名が目安ではあるが、必ず入浴しなければいけない人数ではないことを共有している。 出来るだけ添える様になっています。 一人ひとりゆっくりと入浴されていると思います。 支援している。 前回の入浴日を確認でき、そこからの日数を目安に、声掛けを行ったうえで、ご本人様の思いを活かした入浴の実施を行っている。 体調に応じた入浴御提供が行えている。 時には温泉へ行けると良いと思う。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われており、利用者が週2回以上の入浴ができるように支援が行われている。入浴を拒む方も声かけを行いながら定期的な入浴につなげている。リフトの設置も行われてあり、身体状態に合わせた入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間入眠ができるように日中は生活リズムが出来るように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や管理者から必要に応じて確認させてもらっている。 定期的な見直しを定期往診時やユニット会議内で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	可能な限り役割を持っていただけるよう声掛けを行っている。 個人の特性に目を向けて支援している。 お手伝いなどの役割、レクなど楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスのため難しいことが多い。しかし、できる範囲でご家族様と協力し合って希望に沿った外出がなうよう努力している。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、ホームの駐車場が広いことで、利用者が日常的に近隣を散歩する機会がつけられている。感染症対策を行いながら、個別の外出支援を行う等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、ホーム内での検討を行いながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	貴重品は事務所で預かりすることになっているが、希望や必要があれば使用できる。今はほぼ行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から申出あれば電話している。希望時に電話していただくことが出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りの季節に合わせたカレンダーや壁画の絵など作成・展示しています。 玄関や共用フロア等、季節感がある雰囲気づくりに努めている。 毎日掃除を行い、居心地の良い空間が保てるようにしている。 季節の飾り物等、利用者様と一緒に作成したりしている。 トイレ内の必要物品の置き場所を工夫したい。	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者がホーム内や併設事業所に移動する等、閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、ホーム内に季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示を行い、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様同士の相性を気にしながら工夫している。 スタッフ間で「部屋にこもらせては良くない」といった空気がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じてご家族様と協力し合っている。出来ていると思われまます。 本人が使用されていた机や筆筒などあり、それぞれ個性が出ている。 使い慣れた物や利用者好みの物をご家族が準備してくださっている。 個々に合わせた配置も考えられている。 お好きな香などあっても良い。	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた入居前からの使い慣れた家具類を持ち込んでいる方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にクローゼットが設置されており、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口の名札やトイレの案内表示等工夫を行っている。 危険と思われるところはスタッフが付き添いを行っている。 自立支援に努め、環境整備も行っている。		